

平成29年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立新月中学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫
 中学校 中高一貫 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校 その他（ ）
 所在地 〒988-0822
 宮城県気仙沼市切通100番地
 E-mail niitsuki-chu@kesenuma.ed.jp
 Website _____
 幼児児童生徒数 男子 80 名 女子 67 名 合計 147 名
 幼児・児童・生徒の年齢 13歳 ～ 15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校のESDは、総合的な学習の時間における「生き方を探求する学習」を通して、「志教育」との関連を図りながら、持続可能な社会づくりのための担い手としての資質・能力及び態度を育むことをねらいとしている。

【ESDで育てたい資質・能力】

	ESDで育てたい資質・能力	総合的な学習の時間における評価の観点	志教育の視点
①	① 批判的に考える力 ③ 多面的、総合的に考える力	問題や関係をとらえる能力 (思考力)	もとめる
②	④ コミュニケーションを行う力 ⑥ つながりを尊重する態度	適切に表現してかかわる能力 (表現力)	かかわる
③	② 未来像を予測して計画を立てる力 ⑦ 進んで参加する態度	主体的に解決する態度 (課題解決)	はたす
④	⑤ 他者と協力する態度	自己の役割を果たして共に生きる態度 (生き方)	もとめる かかわる はたす

全校テーマ「生き方を探求する学習」（各学年28時間）

年度初めの授業では、全校生徒を対象として3年間の学習活動の概要についてガイダンスを行った。各学年のテーマを確認し、1年次、2年次、3年次と段階的に探求を進めていく学習活動であることの共通理解を図った。また、探求活動の方向性を示すために、市職員とNPO法人の方を講師として招き、自分たちが暮らす地域の現状と展望についての講話をいただいた。



市震災復興・企画課 課長 小野寺氏
「復興状況と今後の展望について」



NPO法人 代表 佐藤氏
「活動内容とこれからの期待すること」

1学年テーマ「社会を知ろう」

問い：「私たちの社会にはどんな良さや課題があるのだろうか？」

社会の課題については、関心のある事柄について個人でレポートを作成した。また、福祉施設職員の方から講話をいただき、高齢化社会について学習した。社会の良さについては、「気仙沼の日本一を知ろう」というテーマを設定し、調べ学習や市内漁業関連施設見学を行い、学習のまとめとして、班で新聞を作成し文化祭で発表した。



「高齢者疑似体験装具での体験」



「水産加工場の見学」

2学年テーマ「人々を知ろう」

問い：「社会にはどんな生き方や取組をしている人々がいるのだろうか？」

地域社会で働く人々にインタビューする活動では、活躍している人々や関心ある職種の方々を訪問し、生き方や取組についてのインタビューを班毎に行った。また、職場体験学習では働く人々の志や願いを学び、インタビュー内容と併せてまとめ、文化祭で発表した。



「民宿の女将さんへのインタビュー」



「介護士へのインタビュー」

3 学年テーマ「生き方を考えよう」

問い：「将来の自分は社会の中でどのように生きたいのか？」

地域で活動する NPO 法人や企業の方々を招き、地域の課題解決に向けて話し合い、生徒主体で提案プログラムを作成した。5つのグループに分かれ、それぞれ団体の方々とディスカッションを重ね、その団体の方々を招いてプレゼンテーションを行った。

また、3年間の探求学習の集大成として、文化祭で、生徒一人一人が将来の自分の生き方についてステージ発表をした。



「企業との企画の打合せ」



「企画案のプレゼンテーション」

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(「生き方」の探求)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

本校では、ユネスコスクールとして、ESDを主に総合的な学習の時間における「生き方を探求する学習」の中に位置付け、「志教育」との関連を図りながら、持続可能な社会づくりのための担い手としての資質・能力及び態度を育むことをねらいとしている。

活動内容を平成28年度から大幅に改編した。課題発見から課題解決への過程を経験させ、思考力・判断力・表現力を伸ばすための指導に重点を置いた。また、社会との関わりの中で生きていくことを考えさせるために、企業やNPO法人等の団体、地域人材等の積極的な活用を図っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

学年ごとに段階性を持たせ、全校テーマである「生き方」の自覚を、3年間の学習を通して高められるように各学年の学習テーマを設定している。また、各学年の学習テーマを「問い」の形で設定することで生徒の探求心を刺激し、主体的に課題解決に取り組むよう促している。

学習の流れとして、個人の課題からグループ分けし、グループ研究として活動を進める。研究のまとめとしては、新聞やレポート、プレゼンテーションの形式でまとめ、文化祭等を発表の場とする。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

ワークシートやレポート等をポートフォリオ形式で蓄積したものによって個人の変容を捉えている。また、年度に一度、全生徒と保護者を対象に行う学校評価アンケートの中に、総合的な学習の時間についての項目を設け、活動の改善に生かしている。

生徒は活動に対して大変意欲的に取り組んでおり、生徒・保護者の評価も高い。課題としては、学年が進むにつれ、自らの考えや課題が新たに更新され、探求学習がより深まるような系統性のあるカリキュラムの改善が必要である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

個人やグループで研究したことをレポートや壁新聞にまとめ、文化祭で地域の人々や保護者に発表した。3年生は、プレゼンテーションの形式でまとめ、協力していただいた団体の方々を招いて発表した。

また、市のESD/ユネスコスクール研修会では、市内のユネスコスクールである幼・小・中・高校が集まり、各校の実践事例を基に成果や課題等について情報交換を行った。外部からの意見や他校の事例を知ることにより、本校の取組について客観的に見ることができ、質の向上につながっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

本校の学習活動は、市職員、市内で活動するNPO法人や企業の方々、地域で活躍する方など、外部の方の協力が必要不可欠である。初めは人材探しに苦慮したが、コーディネーターを得て、協力いただけそうな方を次々に紹介していただけたことで、多くの方に関わっていただけることとなった。複数の学年で同じ方に協力いただくこともあり、生徒に限らず、教師にとっても有意義な交流となり、次年度につながるネットワークを構築することができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

ESD担当教員が気仙沼主催のESD/ユネスコスクール研修会やESD/RCE円卓会議に参加している。他県の実践事例やESDに関する世界的な動向について知るための貴重な機会となっている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

市が教育の基盤として考えてきたESDが、若手教員にも浸透してきたことが、大きな効果の1つとして実感している。具体的な変化としては、日々の教育活動の理念に、ESDの理念にある「持続可能な」という考え方が加わったことである。「持続可能な社会づくりのための担い手の育成」という考え方は、総合的な学習の時間に限らず、あらゆる教育活動に共通することを学んだことで、日々の教育活動全般におけるバックボーンとなってきたものと感じている。

(3) 平成30年度の活動計画

ESD の取組として、30 年度も総合的な学習の時間を中心に取り組む。学習活動を改編して3年目となるので、下記のとおり29年度と同じテーマで行う。

全校テーマ「生き方を探求する学習」(3カ年計画)

1 学年 探求学習 1 「社会を知ろう」

問い：「私たちの社会にはどんな良さや課題があるのだろうか？」

2 学年 探求学習 2 「人々を知ろう」

問い：「社会にはどんな生き方や取組をしている人々がいるのだろうか？」

3 学年 探求学習 3 「生き方を考えよう」

問い：「将来の自分は家庭や社会の中でどのように生きたいのか？」

ESD を推進していく上で、以下の3点の改善を図っていききたい。

- ・ 持続可能な開発目標であるSDGsの17の目標の活用。(導入時のガイダンスで示す、1学年の社会の課題を考える際の視点とする等)
- ・ 各教科・領域等で身に付けた基礎的な学力を生かし、課題を解決する能力を育むための学習として、教科横断的な指導(教科等との関連を生徒がより実感できるような指導)の充実を図る。
- ・ 学習活動に協力していただける地域人材の確保。(地域教育資源活性化事業「南三陸教育応援団」の活用など)